第３期総合戦略の体系および地方創生 2.0 基本構想との関係

参考資料２

国の地方創生２．０基本構想

目指す姿	政策の５本柱
「強い経済」と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る	【柱１】 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
	【柱２】 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生
	【柱３】 人や企業の地方分散 関係人口を活かした都市と地方の支え合い
	【柱４】 新時代のインフラ整備と AI・デジタルなどの新技術の徹底活用
	【柱５】 広域リージョン※１連携 自治体の区域を超え経済の観点でも官民連携のプロジェクト

第３期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略

将来像	基本目標	(2030 年(R12)に)めざすまちの姿	ＫＧＩ	施策	施策の方向性	横断的視点
安心に包まれ　ワクワクが広がる　未来への挑戦を楽しむまち　つなぎ　つながり　ともに歩む	【目標１】 いつまでも安心で、ワクワクしながら暮らせる生活環境をつくる	誰もが「安心」をベースに、毎日を「ワクワク」、希望を持った暮らしを送ることができている。	自分の将来について明るい希望を持っている市民の割合 ●現状値(R7) 54.2% ●目標値(R12) 65.0% 現在の地域に住み続けたいと思う市民の割合 ●現状値(R6) 75.5% ●目標値(R12) 80.0%	【施策 1-1】 こどもが主役のまちづくりの推進	「こどもが主役のまち　はつかいち宣言」の理念に基づき、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援体制を充実させるとともに、地域、企業、行政など多様な主体が連携して子育てを支える環境を整備します。また、学校教育においては、こどもたちが自らの可能性を信じ、未来に希望を持って挑戦できるように「生きる力」を育みます。	市域を超えた多様な主体（広島県や近隣市町、企業、大学等）との連携 ＡＩ・ドローンを始めとした様々なデジタル・新技術の活用
				【施策 1-2】 日常に不可欠な生活基盤の確保	日常生活の中で、自然な見守りや声かけ、交流により、人と人とのつながりが育まれ、地域の多様な主体（行政、医療機関、企業、NPO、市民団体等）が連携し、年齢や経済状況、障がいのありなし、国籍などにかかわらず、すべての市民が住み慣れた地域で支えあいながら心身ともに健康に安心して暮らすことのできる地域を実現します。	
				【施策 1-3】 地域資源を活かした地域主体のまちづくりの推進	多様な主体がそれぞれの役割を発揮し、地域特性や資源を活かしながらまちづくりを推進します。また、生涯学習やスポーツ、文化芸術活動を通じて、市民がいきいきと暮らし、地域の歴史や文化に誇りと愛着を持つことができる心豊かな地域を形成します。	
				【施策 1-4】 安全・快適に住むことができる環境の整備	都市機能の集約と地域公共交通ネットワークの構築、社会インフラの適切な維持・整備により快適な居住環境を確保するとともに、交通安全・防犯対策を強化し、誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりを推進します。また、ゼロカーボンシティの実現に向け、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進を図ります。	
				【施策 1-5】 災害に強くしなやかなまちの構築	防災に関する啓発活動に取り組み、災害に対する自助の意識を醸成するとともに、地域の自主防災組織では、防災に関する活動が積極的に実施され、災害時には声をかけ合い、助け合うまちづくりを推進します。また、地域強靱化計画に基づき、行政機能や安心して暮らすための浸水対策など、防災インフラの維持・整備を進め、大規模災害時の体制を整えます。	
	【目標２】 未来への挑戦で、地域経済の魅力・活力を創出する	「はつかいちらしさ」を活かした挑戦により、地域経済において新たな価値が生まれている。	市内事業者の景気動向を示す業況 DI※２が県内平均を上回っている割合 ●現況値(R6) ４半期/３半期 ●目標値(R12) ４半期/４半期	【施策 2-1】 まちの産業の経営基盤強化と新たな産業の創出	広大な市域に多種多様な産業がある本市の強みや特色を活かし、産業連関の強化や産業基盤の整備などを推進します。また、企業誘致や新たな投資を促進するとともに、創業支援を通じて産業の活性化を図ります。	
				【施策 2-2】 農林水産業の振興	農林水産業における担い手を育成するとともに、デジタル技術の活用により生産性の向上を図ります。また、市内の農林水産物への愛着心や安心感を深め、地産地消を推進します。	
				【施策 2-3】 地域の観光資源の魅力を活かした経済循環の拡大	地域の観光資源の魅力を高め、戦略的なプロモーションを行うことで、観光客の滞在時間や消費の拡大を図ります。また、市民は観光を通じて地域への愛着や誇りを持ち、観光客は訪れる地域や文化、歴史、暮らしを尊重して観光を楽しむなど、市民生活と調和した持続可能な観光地づくりを進めます。	
	【目標３】 人と人、人とまち、まちとまちのつながりを深め、新たな人の流れを創出する	市内外にまちの魅力を「つなぎ」、廿日市のファンとして「つながり」が生まれている。	人口の社会動態 ●現況値(R6) 転入超過 ●目標値(R12) 転入超過	【施策 3-1】 移住・定住・関係人口の拡大によるまちのファンづくり	居住地として選ばれ続けるため、ターゲットに合わせた方法により本市が持つ多様な地域性からうまれてくる魅力を伝え、認知度・好感度を向上させるとともに、移住定住の受け皿としての空き家等の効果的な活用を図ります。また、地域内外の交流や国際交流を進め、関係人口の創出を図ります。	
				【施策 3-2】 選ばれるまちづくりの推進	多様な人材が活躍し、誰もが地域社会の一員として互いに尊重し認め合いながら、一人ひとりが自らの希望に応じて、自分らしい働き方や生き方を実現できるまちづくりを推進します。特に、若者が「住み続けたい」「住みたい」「働きたい」と思えるよう、地元企業とのつながりづくりを進めるとともに、やりたいことを実現しやすいまちを目指します。	

<用語解説>
※1 都道府県域を超えた広域的な単位で、地方公共団体と経済団体や企業、大学、研究機関等の多様な主体により構成される枠組み。
※2 景況感の広がりを示す指標。事業者の「好転」等の回答割合から「悪化」等の回答割合を差し引いて算出する。